

近頃は不景氣で金にならない  
堅氣の奉公では子供の養育に困るから  
チップを澤山下さる方を望む  
勉學の金を欲しさに

計

一三四

### 二、現職に對し悪いと言ふもの

三一一 (二六・五%)

良いと思ふことなし  
良いと思はない早く止めたい  
他に仕事がないので仕方なしに  
女給を世間の人は理解しない  
一部女給の爲世間の人から卑しく見らるゝのが残念だ  
よいと思つて居つたが悪い處だ  
早く一定の職を求めたい  
前職の契約に早く歸りたい  
客の前で虚偽の言葉や態度をしなければならぬのが情ない  
品行が悪くなる

計

九六  
八四  
五四  
四〇  
二三  
三  
二  
一  
一  
一  
三〇五 (二五・九%)

### 三、現職に對し良いと言ふもの

よいと思ふ  
社會の状況及び男の心理が判るからよい  
心掛一つで良いと思ふ  
將來獨立するには良い

一三八  
五八  
四三  
二七

多くの人と交際するからよい  
體が自由になるからよい  
傍で見るとよりよい職業と思ふ  
容易に就職出来るからよい  
教育のない人にはよい職業だと思ふ  
體の弱いものにはよい職だと思ふ  
藝者よりよい  
女には最も良い職だ  
チップ制度の店でないからよい  
よい服装をしておられるからよい  
いやだが止める氣にもならぬ  
女工より榮だ  
忍耐力が強くなるからよい

計

二一  
一〇  
九  
六  
五  
五  
二  
二  
二  
二  
二  
一  
一  
一  
一  
三三三 (二八・二%)

### 四、其他

チップ制度を廢し給料若しくは賣上歩合にして欲しい  
裁縫を習ひたい  
定休日を欲しい  
勉強したさに  
將來成功したさに  
學生の出入は考へもの  
チップを一割ハネルとはひどい

五  
二  
二  
一  
一  
一  
一  
一  
一三五

女給は境遇の悪いものばかり

客の取扱ひは難かしい事だ

早く嫁に行きたい

親の面倒を見られないが悲しい

失戀の結果あらゆる男をだましたい

計

一八(一・五%)

五、何の考へもなきもの

何の考へもない

二〇九(一七・七%)

合 計

一、一七五(一〇〇・〇%)

申告「カード」千六百七十枚中全く本欄の記入のないものが四百九十五枚(總數に對する二割九分六厘)あつた。残り千七百七十五枚を五大別にして見ると經濟的事情と認められる意見が三百十一人(二割六分四厘)現職を悪いと謂ふものが三百五人(二割五分九厘)、次に良いと謂ふものが三百三十二人(二割八分二厘)、希望感想で以上に當らないのが十八人(一分五厘)、何の考へもないと答へたもの二百九人(一割七分七厘)となる。猶細部に就ては第一の經濟的事情の感想としては「境遇及び家庭の事情で仕方なしに」と、「他に比し収入が多いから」と、「家庭へ送金したさに」との三つの大部分は家庭に於ける貧苦の深刻味を如實に物語つてゐるものばかりで一例を擧ぐれば「他に家庭を助けるものはなし」、

「父は病氣で仕方なしに給料の多い女給生活を選んだ」、「父は事業に失敗する、それに運悪く病氣になつて如何とも仕方なく女給になつた」、「両親が死亡して兄一人しかない。少しでも兄のため手助けをしたい」、「不景氣で夫の仕事がなくなり生活費に不足を來し仕方なく」、「國に残して在る一人の母に安心させるために送金したさに」、「夫に死なれ、(又は離別になり)子供を養育するに困るから此の職に就いた」、「某官廳の事務員に雇はれてゐたが父は娼妓になれと言つて役所の方は止めさせられた。而も二人の姉は皆娼妓になつてゐるのに又々自分に娼妓になれと言ふので、仕方なしに家出をして女給になつた」、此の項の記入はどれもこれも涙なしには讀まれないものばかりである。

要するに女としては金になる職業で、堅氣の女中奉公では拾五圓か貳拾圓が關の山。女學校を卒業するを條件とした事務員級では初任參拾圓が漸くの事であるのに女給になれば其日から金になる。學問も要らなければ過激な労働もいらぬ。それに住込みで月參拾圓から多いものは百圓以上にもなると言ふ。よいと思はないでも金の先だつ世の中のことだ、まア収入の多い此の職業を選んだものが多しと言ふのも過言ではあるまい。

現職に對して悪いと言ふものは、只何と言ふ事なしに良いと思はないと謂ふ者が多い。他に希望も感想もないもの許り。良いと思はない、早く止めたいと云ふ八四人は女給をしてゐると段々ダラシなくなる。時間は不規則、従つて食事時刻も一定せず、女の心得おかなければならない裁縫も出來なけ

れば、洗濯も出来ない、女のやらなければならぬ事が段々出来なくなり自然フシダラとなる之が最も悪い。早く止めて堅気の仕事に就きたいと言ふものが多い。次は不景氣と就職難で、今迄ミシン掛をやつてゐたが仕事がなくなり、又他に良い職がないので手つ取り早く容易に就職が出来て其の上多分のお金になる女給になつたと言ふものが多い。

女給と言ふと直ぐに卑しい目で見られる、幾ら眞面目に働いても一、二不行跡者のあるために此種職業にあるものは比較的眞面目だと評されるを嘆かないではゐられない、又多數の異性に交るから意志を強固に持つ事が難かしい、場合によつては魂迄賣らなければならぬと悲しんでゐるものもある。要するに之はよいと思はないが仕方なく、曳づられてやつてゐると言ふものが多數で其他は女給とても世間の人から正しい目、即ち一職業婦人として待遇されたいと言ふ叫びである。

現職を良いと答へた三百三十二人中よいと思ふと云ふ百三十八人は主人が嚴格だからよい、喫茶店だからよいと言ふものゝみで、他に何の考へも意見も持たない。其他の人は多くの者と交際が出来、社會の狀況が判明するからよい、又男の心理が判るからよい職業だとか、誘惑の多い悪い職業だが心掛け一つで決して悪くない良い職業だと言ふものもある。其他教育のない人で筋肉勞働に堪えぬ女にはよい職業だと答へたものもある。

要之に主人がよいからと謂ふ以外は別に學校に澤山通つたわけでもなし女事務員をするには學力が低い、女工にはなる氣になれない、茲に就職が容易で香水に白粉に美しく身を粧り立てられ、無學の婦人としては有難いと思ふ程収入があり、其上身體は自由になるから此の職業はよいと云ふに過ぎないのである。

其他の項は項目の通り別に記述することはない。  
次に弊害に就て本欄記入「カード」千七百七十五枚中弊害と認めらるべき記述が百七十五人あつた。夫れを項目別に見ると。

第五十六表 (東京)

誘惑が多い又誘惑され易い	八三
心がすれて漸次不良性となる	二〇
夜遅くなるのが困る	三三
ミダラになる	九
不良の徒には困る	八
酒や煙草を喫む様になる	六
客にだまされる	四
男に許り接するから悪くなる	三
不知不識の間に自己の良心に叛いてゐなければならぬ様になる	二
チップを誘惑の手段とする	二
人の信用がなくなる	二
虚榮心が強くなる	一
ミダラな事をするを得意とする客あり	二

飲食するより女に戯れる爲に来る人が多い

上記項目を見るに殆んど全部が異性よりの誘惑を如實に物語つてゐる。

此種享樂的な職業にあつては客の大部分は飲食を目的にするに非ずして白いエプロンをかけた女給を前に置いて少し許りの飲食で長く女に戯れ、甚しい人になるとコーヒー一杯で何時間と言ふ程遊んでゐるのがカフェー気分と言ふものだそうで、そして其の間に誘惑の牙を磨いてゐる、之れがカフェーの裏面であり、カフェーへ遊びに行く男の心理だと云ふ。自覺せる女給は異口同音に此の弊害を叫んでゐる。又勤務時間の長いのも弊害の一つで、特に通勤者にとつて夜半一時、二時頃、若い身空で單身歸宅を急ぐ彼等の身邊には必ず不良の徒が附物だと言ふ。之れが通勤者にとつて店内に起る誘惑に次いで困ることだと謂ふのである。そして不知不識の間に自分自身が不良性になると云つてゐる。次に大阪の部に就いて統計的數字を以て見ると。

第五十七表 (大阪)

一、經濟的事情と考へらるべきもの

家庭の事情で	九二
他に比し収入が多いから	八九
衣類が自分の力で出来るから	八
自分の生活の爲に	一九
家庭へ送金出来るから	一六

案外収入の少ないのにあきれる

計 八 二二二(二八・九%)

二、現職に對して悪いと謂ふもの

良いと思はない早く止めたい	九八
悪い職だと思ふ	一三〇
學力がない爲仕方なしに	四二
家出の爲に仕方なしに	三
夫に離別の爲に	二
他に職がないために	一九
計	二九四(三六・六%)

三、現職に對して良いと謂ふもの

良い職だと思ふ	八七
多くの人に交際し又男の心理が判るから	二五
樂な職だからなつた	一三
體の弱いものには適當の職だと思ふ	四
計	一二九(一六・一%)

四、何の考へもないもの

何の考へも持たない	一四七(一八・三%)
計	八〇二(一〇〇・〇%)

右の八〇二枚の中から更に弊害と認むべきものを抜き出せば

一四二

誘惑が多い

時間が長くて不規則

世間の人は女給を理解しない

不良の人には泣かされる

虚榮になり易い

チップを度し月給又は賃上歩合にして欲しい

長くする程悪くなる様だと思ふ

計

一五四

一五

五

三

一七

五一

二八

三五

申告カード千百十五枚中本欄の記入の全くないものが三百十三枚即ち二割八分あつた。残り八百二枚の中、経済的事情で就職してゐる者が二百三十二人(二割八分九厘)次に現職に對する意見で悪いと言ふもの二百九十四人(三割六分六厘)他に原因があるにしても兎に角良いと思ふものが百二十九人(一割六分一厘)何の考へもないと謂ふものが百四十七人(一割八分三厘)あつた。尙右の内に弊害と認むべき事を記入したものが百五十四人ある。

猶細部に就て観ると第一の経済的原因としては自分の現在の職業は良い職業ではない、然し他の仕事をすれば女給程の収入は得られない、先づ何より収入の多い仕事を選定したい、其でなければ家庭の補助も出来なければ、自分の生活の資にも窮する、何はともあれ収入の多い女給を選んだと云ふものが大部分を占めてゐる。

次に現職に對する意見では女給の悪いと言ふのは女給は世間の人から見て悪いとされ外出しても後指を指される、日毎に變る客の多くは飲食は二の次で狼の様に弱味につけ込んで女の貞操を弄ばんとするもの許り、之が情ない。就職難は身に迫り仕方なしに就職の容易な此の女給生活に入つたと。

女給はよい職だとの理由に付ては餘り深刻な叫は聞かれない只主人がよいから良いと思ふが大部分で、多くの人に交るから交際が上手になるとか男の心理が判るから夫を持つた後夫の機嫌をとるによいとか、女給は樂だから良いとか精神的墮落と見るべきものもある。此の中身體が弱い過激な労働の出来ないものには適當の仕事だと言ふのが四人あつた。

弊害としては世間の人は女給を理解しない。普通の職業婦人として見て貰ひたい。女給とても立派な一職業だ。それを卑下して見るから自暴自棄になり段々人が悪くなるのだ。それに誘惑が多い紳士然とした人程女の或るものを得やうとする。若い女のする事でない。時間の不規則も困る夜は遅く従つて食事も不規則になる、之は何んとかならぬものか、又不良の徒や酔つばらひには泣かされる。之が女給をしてゐて一番困ると云ふにある。

之を要するに兩市を通じての希望、感想、弊害に關する記述を見るに第一に擧げた経済的事情に關すると認むべきものは殆ど就職の理由と同一の事を言葉を換へて言ひ現はしたり又は詳細に書き出したものゝみで就職の理由に何等變りがない。其他は各項目に區別集計した如く種々なものがある。

此の欄を一通り読み下して見ると先づ収入が多いこと、容易に就職が出来ること、生活上氣樂なことの大體三つに分つことが出来るであらう。此の意見以外女給に就て弊害と認むべき記載があつた。此の職は良くない職業と知りついても又考へついても収入が多いから仕方なしに就業してゐる。現在は家計補助にしろ、生活維持費にしろ、少しでも収入の多い處と望むが人情だと思ふ。毎日辨當かへて工場通ひをして月末參拾圓の収入を得るのは容易の業ではない。又化粧石鹼の包装に熟練して手が器械の様に動いて手の止まる事のない程の者でも一日七拾錢は容易のことでない又下駄の鼻緒の内職をしても目下の不景氣では一日五拾錢稼ぐには拂曉から夜半迄も働かなければならないと云ふ話であるそれに比べると女給は住込みで住むことゝ食ふことの心配もなく需要は至る處にある。就職が容易で身體さへ行けば其日から金になる。技術もなければ修練も要らない。普通月収は參拾圓で多いのになると百圓以上にもなると言ふことであるから一寸なつてみたがることではある。

堅氣の女中奉公をすれば竹や松やと呼棄てにされ窮屈な上に臺所の水仕事で手を荒さなければならず、學校通ひの坊様、嬢様の附添ひやら、やれ行儀だ作法だと、堅苦しいことばかりであるに反し、一方女給をすれば御主人の機嫌を窺ふ事もなければ氣難かしい奥様の小言もない、又學問もいらなければ職工の様な労働もないと謂ふのであつて考へ方から普通とは違つてゐる。

次に弊害を述べてゐるものは概して自覺した眞面目な女給である。誘惑が多くて誘惑され易い。未婚の女としては何處迄も處女の誘を失はせたくない、操は貴い、それなのに客の多くは此の弱い女を自由にしやうとして金に、言葉に、あらゆる手段を講じて餓えたる狼の如く寄りたかつて来る、強い決心を持つてゐても不知不識に良心に反いてゐる結果を招く様になるのが悲しいと悲痛な叫びを書いてゐる。

時間も長い、十二時、一時迄も働らいては睡眠も充分にとれない。従つて朝起きるのも遅くなり勝らで、女として、又母として、妻として、習得しなければならぬ裁縫や洗濯さへも出来ないのが悲しい、と云ふことである。

## 一八 將來の方針——希望感想欄ノ二

此の欄の記入によつて女給生活者の思想傾向を可成り確實に窺ふことが出来ると思ふ。此の票の記入殊に此の欄の記入に惡戯的な不眞面目な申告があつたが其は彼女等の思想の傾向を見るには何らの支障とならぬ。又此種の數は極小數に過ぎぬものであつた。先づ東京、大阪を通じて約三割は何等の將來に對する考へもなく只其日の生活を送つてゐるもので眞面目に誘惑を避けて其日其日を務めたいとか、嫌で堪らぬから一日も早く止めたいとか、自分はよいと思はぬが家庭のために其生計補助に止むなくやつてゐるとか言ふもの、都合つき次第止めたいが今暫くは諦めて仕方なくやつてゐると言ふ

様な者等である。後の七割位は大體に於て何等かの考へを述べてゐるものであつて之等を假に分類して見ると次の様になる。

第五十八表 將來

方針別	實數		率	
	東京	大阪	東京	大阪
一定の考なきもの 結婚に關する方針	三九四	二九〇	二七・八	三一・七
職業に關する方針	七一八	四二二	五〇・六	四五・〇
其他	二八四	一九〇	二〇・〇	二〇・七
計	一、四一九	九一六	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	二五一	一九九		
總計	一、六七〇	一、二一五	二、七八五	

元來希望欄の答を統計的數字に纏めることは其實相を知り或ひは感ずるに良法ではない。然し大體の傾向、概括的の處を知る爲に參考にもならうかと思つて擧げたのである。

先づ一定の考なきものが東京市に於ては二割八分弱、大阪は三割二分弱で之は別に何の考もなしと

言つたもの及び眞面目に働かうとか金を貯めようとか多少の考はあるとしても將來に對しての希望の皆目現はれてゐないものを含む。次に結婚に關することを述べたものが東京に於て約五割強、大阪に於ては約四割五分で各約半數を示してゐる。此の記入は兎に角結婚と言ふものを中心として自分の將來を考へてゐるものであつて眞面目な夫に嫁したいと言ふのもあれば漠然理想の夫を求めやうと希望、暖き家庭の生活を夢見て空想に近き將來を描き到底遂げ難い希望を抱き締めておるものも相當に多い。又其れと反對に至つて實直な考をもつて、自分の様な社會に入つて居るものでも理解して呉れる人があれば嫁したいと言ふのもある。身分相當の眞面目な温順な夫に事へ貞淑に過したいと言ふ様な健實さを含む等種々雑多である。

例A、東京の部

- 一、商家
  - 二、無産階級の眞面目に働く人を希望す。
  - 三、相當世に苦勞して來た人を希望す。
  - 四、財産の有無を問はず人格者を希む。
- B、大阪の部
- 一、醫師、大實業家。

二、よく働く人、大工、酒屋。

三、地位や名譽はいらぬ。唯業務に熱心な柔順な人。

四、共稼ぎでもよし。

次に結婚するしないは第二の問題として何か女給以外の職に就きたいと言ふ希望を述べたものがある。之は兩市共に各二割位を占めてゐる。此の中にも只單に何か職があれば變りたいと言ふものや一々希望職業迄明かにしてゐるものがある。今其希望職業として書き記された數種を擧げてみれば

例A、東京の部

洋食屋、喫茶店、髪結び、寫真屋、呉服店、美容院、ミシン業、琵琶師匠、魚屋、雜貨店、小間物屋、煙草店、タイピスト、ガイド、女優、書籍屋、藝妓屋、旅館、染物屋、裁縫女塾等。

B、大阪の部

果物屋、理髮店、女事務員、煙草屋、女中、ミシン業、カフェー開店、洋食屋、氷店、露店、女優、百貨店、産婆、自動車運轉手、おしる粉屋、タイピスト、駄菓子屋、三味線踊の師匠等。

其中でも飲食店を開きたいものが可成り多く、それから只單に金を貯えて商賣をやりたいと言ふものも可成り多いらしい。其他の項には何れの項にも含めないもの及び調査の参考となる様なものもあつて種々雑多な意見の様な希望の文句が割合に長々と述べられ中には非常に興味を惹くものもある。

例として數條擧げて見れば

(例一) 職業婦人として何人にも氣兼ねなく生活が出来働くことの愉快さがしみ／＼感ぜられるので

一生獨身生活を望みます(實母を養ひ乍ら)。

(例二) 縁付くにも再縁だし商賣するにも金はなし天職なし今の所將來の考付かず。

(例三) 女學校まで卒業して女給する私は妹を高級の學校に進ませたい爲と母に樂をさせたい爲です喜んで其爲に盡したいと思ひます。而して此んな前半生を持つ私の様な女でも宜しいと言はれる方で且私も立派な方だと思ふ方があれば嫁しますが。

(例四) 別に將來の事等は考も浮びませぬ。理想はないでもないが理想を抱いても實現は難かしいから運命に任せます。

(例五) 將來の希望!それは現在資本主義の社會では望み得られないことですが人に支配されず支配せず眞實の人間愛に立脚した社會の建設されることを望みます。

(例六) 私は末のことなど考へたことはありません。斯うして嫌な嫌な職にゐるのも世の人々を呪はゞこそでございます。私はあらゆる男性を苦しめてやりたいと思ふけれど力弱い少女の身で却つて自分が毎日苦しめられてゐます。(鉛筆の自筆らし。十七歳、前職女中)

(例七) 今の世の中はお金の世界で親に孝行するのもお金ですから心さへ眞面目であればどんな職業



についても一緒です、世間の人に笑はれても決して心に恥ぢて居りませぬ。人に悪口を云はれても今に必然と成功する自信がありますから寧ろ勵みの言葉と聞いております。お金を貯めて女主人となつて大いに社會に立つ積りです。(二十五歳)

(例八) 女給向上會なるものを組織して毎週一回位裁縫、茶道、生花等を教へられ又講演等も聞いて今日迄の世人から排斥否不良女子と認めらるゝ我等一同の爲め會を組織して向上の道に進みたい。

(例九) 妻の將來は華かに又太く短かく人より面白い目をして又面白いことをしてさうして早く此の世を去りたいと思つてゐます。

(例十) この面白い社會にゐて今迄の苦痛を免がれたいと思ひます。

(例十一) 將來について何も考へてゐませぬが多少は都に憧憬して居たが扱て都に来て見ると都の人に驚かされました。お金を貯めて早く歸ります。

(例十二) 就職を望む若き女性に現在の様な不眞面目な職業に就かせざる様に。寄生的の生活を求めず強い女性として生きたい。

(例十三) 外國へ行つて暢ん氣に暮したい。

(例十四) 結婚を希望するも餘りに異性の缺點多きを知り結婚を悲觀する傾向になつてゐる。女性は男性の力にのみ依頼せず夫の失業に備え得る力を養ふを要すと思つてゐる。勤儉貯蓄して生活の

安定を得る様に努めたし。

(例十五) 出来るならば心のしつかりした男と暮したいと思ひますそして子供は生活の安定が得られる迄出来ない様にしたいと思ひます。先づそれより先きに理想ばかり高くなりたがる今の生活から今年一杯で別れて元の地味だけれども落付いた気分になられる小間使になります。そして幸福の訪れを静かに待ちます。

(例十六) 世の中が信じられないのですから感想等ありませぬ。

次に第五十八表を更に東京、大阪に分ちて各警察管内別にしたるものを挙げれば次の如くである。

第五十九表 將 來 (東京)

別日考へな	谷比日
一にも早く止めた	町 錦
家のため或は自活のため止むを得ず	田神西
親めかせるから早く止めた	橋場新
親物が出来たら歸國に從ひます	地 築
今の内働いて老ひたら樂みます	屋紺北
將來は現貨は現貨に生きてゆ	田 三
何事も運命にまかせます	町 表
兄弟の成長を唯一の楽しみにしてゐる	谷 四
一定の考	坂樂神
	田稻早
	坂 富
	士富本
	野 上
	湯 象
	庭 原
	崎 洲
	塚 大
	堤本日
	計

合計	不明	其他	職業に關する方針を書きたるもの		結婚問題に關する方針を書きたるもの	
			職業に關する方針を書きたるもの	結婚問題に關する方針を書きたるもの	職業に關する方針を書きたるもの	結婚問題に關する方針を書きたるもの
107	27	1	2	3	3	3
218	4	2	2	2	2	2
29	8	3	3	3	3	3
43	6	1	1	2	2	2
105	13	1	1	2	2	2
69	20	1	1	8	3	3
56	7	1	1	0	2	2
43	7	1	1	6	1	1
18	1	3	3	6	2	2
74	13	1	1	7	2	2
55	4	4	4	2	1	1
77	2	1	1	0	2	2
72	3	3	3	3	2	2
25	2	1	1	3	2	2
35	3	6	6	2	2	2
7	8	1	1	6	2	2
5	2	1	1	6	2	2
3	5	1	1	7	2	2
76	10	1	1	4	2	2
210	22	2	2	24	7	7

第六十表 將來 (大阪)

合計	不明	其他	職業に關する方針を書きたるもの		結婚問題に關する方針を書きたるもの	
			職業に關する方針を書きたるもの	結婚問題に關する方針を書きたるもの	職業に關する方針を書きたるもの	結婚問題に關する方針を書きたるもの
107	27	1	2	3	3	3
218	4	2	2	2	2	2
29	8	3	3	3	3	3
43	6	1	1	2	2	2
105	13	1	1	2	2	2
69	20	1	1	8	3	3
56	7	1	1	0	2	2
43	7	1	1	6	1	1
18	1	3	3	6	2	2
74	13	1	1	7	2	2
55	4	4	4	2	1	1
77	2	1	1	0	2	2
72	3	3	3	3	2	2
25	2	1	1	3	2	2
35	3	6	6	2	2	2
7	8	1	1	6	2	2
5	2	1	1	6	2	2
3	5	1	1	7	2	2
76	10	1	1	4	2	2
210	22	2	2	24	7	7

合計	不明	職業に關する方針		計
		其	他	
		金を貯へて商賣をしたい 他に職があれば變りしたい 飲食店を開きたい 何か手に職を覺えて嫁しても職業婦人として働きたい 自動車運轉手になりたい 美容師になりたい 美味線と踊りの師匠になりたい 女優になりて華かな生活がしたい		
三	一	三	一	原 芦
三	四	三	四	場 船
七	九	一	一	造 玉
七	一	一	一	内之島
六	八	一	一	波 難
七	五	一	一	戎
六	七	二	二	町 新
六	六	四	二	條 九
四	一	三	一	橋日朝
二	六	二	二	寺王天
三	四	一	一	滿 天
五	五	二	二	崎根會
六	八	一	一	尾 泉
三	一	一	一	島 福
三	六	二	一	口 川
一	五	一	一	港 築
三	八	三	一	島 網
一九	一九	二四	一九	計

票に記された女給の將來の希望に關する一般の傾向は以上の如くであるが猶其記載中眞に彼等の心中を正直眞面目に言ひ現はしてゐると思はれるもの數例を擧げて、參考にしやう。

- 一、明春早々歸國して農家に嫁して一生を田舎に暮す積りです。都會生活の輕薄なよりも實直な農村生活の方が遙かに生甲斐ある様に思はれます。
- 二、深く考へて見る餘裕はございませぬから考へて見たことはありませぬが自分は餘り女給と言ふものをよい眼で見すぎてゐたと言ふことが解りましたから一日も早く止めたいと思ひます。

- 三、國へ歸へれば農家に嫁さねばならぬからお金を貯へて思はしい男があれば嫁して現在の商賣を初めたい。
- 四、ウエートレスによつて店の繁榮を俟つと言ふのではなく料理本位とする純レストランを初めたいと思ひます。
- 五、お金がなければお嫁にも行かれませぬ。現在の境涯は誰にも頼れない状態であります。無學な私は此の職業を選ぶ外はありませんでした。將來の希望としては堅實な夫を選択して家庭を作ることです。
- 六、商賣としては利益が多く女に適すると考へてゐたが現在では餘り期待に反することが多いので迷つてゐる仕未です。
- 七、自分は此の職業に入つてから紳士然とした人が誘惑される事の多いのに驚いた。そして一方カフエーのウエートレスを一樣に不眞面目な女と見られるので眞面目でもどうせ不眞面目と見られるならと言ふ不料簡な心が起りますから大抵な人が十人が十人そうなつてしまふのでせうと思ひます。私は最早や罇の入つた身故小遣でも溜めて小賣商(菓子商)でも初めたいと思つてゐます。それと同時に心配かけた兩親に一日も早く安心の出來る様になりたいとそれのみ考へてゐます。

## 第二章 約言

本調査總數は東京、大阪兩市合せて二、七八五人で同一地域に於ける女給概數一萬一千五百四十九人（但し東京は大正十四年六月警視廳調査により七、三一九人、大阪は大正十四年六月警察部調査をとり四、二三〇人と見たる數にして現在の實數は遙かに増してゐる見込）に對し二割五分に満たないけれども各方面のカフェーに亘り配布したものなれば女給調査の概況としては略々正確なるものと見て差支へないと思ふ。

依つて以上を要約すれば年齢は二、六九八人の中一割六分は十九歳で、二十一歳の一割四分四厘十八歳の一割三分三厘之に次ぎ、三十歳以上の者は八十一人に過ぎぬ。兩親に就ては二、二五六人の中實父母健在四割四分第一位で、實母だけのもの二割四分餘、實父だけ一割一分、實父母なしが約七分之二に次ぐ。兄弟は四人兄弟のもの二、七〇二人の中一割九分あつて第一位、次は五人の一割七分五厘、三人の一割七分の順序で一人もないもの六分六厘、十人以上の者千人に九人の割合である。女給の出身地即ち主として育てられた所は、東京市が第一位で、二、七五四人の中二割八分五厘、大阪府一割四分餘、千葉の約五分、兵庫の四分之二に次ぐ。東京、大阪兩府出身の者では市内育ちが大多數を占め八割三分餘。女給の在阪期間は、一年以内が多く一、七九一人の中六四〇人（三割六分）、二年以内二割

三年以内一割の順で東京市、大阪市を出生地とする者二、七二〇人中九一九人ある。前職欄では二、六五一人の四割八分は家事の手傳ひで裁縫又は仕立業見習ひの約一割、女中の九分、學校に通つて居たとする者五分餘之に次ぐ。又就職理由を常識的に經濟的理由と其他とに分つて見れば前者が七割二分、後者が二割八分、前者の中では純粹に家計の爲が四割六分餘で第一位、第二位は女給は収入が多いからと言ふ一割五分餘、他に職なき爲の八分之二に次ぎ、後者中では家庭の事情と言ふのが第一位で三割六分、之に次いで好奇心からと見るべきもの二割四分ある。

女給生活の期間は言ふ迄もなく一年以内が最も多く二、七五四人の中一、五三四人即ち五割六分、二年以内二割七分、三年以内八分五厘の順である。一年以内の中では一ヶ月の者は左程多くはないが二ヶ月、三ヶ月が多く一、五三四人の中一割三分乃至一割五分を占む。又同じ店に勤めてゐる期間は一年以内が大多數で二、六七三人の七割六分、二年の者一割五分の割合で一年以内では二ヶ月最も多く二、〇二七人の中約二割、三ヶ月一割五分、一ヶ月一割四分餘が之に次ぐ。勤務先を變へたものは二、六七〇人の中一、三六八人（五割一分）。此の中に二回變へたもの最も多く二割二分、一回のもの一割七分餘、三回のもの九分五厘、女給の住居は一、九三八人の内七割七分は住込みである。

夜間營業を主とする女給の就寝時間は午前零時半から一時迄最も多く二、七三九人の中二割七分、午前一時半から二時迄の一割八分、午後十一時半から十二時迄一割六分之二に次ぐ。

収入は主としてチップに依るものなれば、月々一定しないものが多いが、大體を見れば、東京大阪通じて住込で貳拾五圓から四拾圓迄の者四割に近く、四拾圓以上六拾圓の二割六分、貳拾五圓以下拾圓迄の一割八分の順で豫想よりは少ない様であるが最少限に見積つて記したものが相當にあるやう考へられる。然し之れとても無教育の者が容易に就職出来る點から見れば決して少ないとは言へまい。

支出の中に於ては、被服費が主要なる部分を占め、化粧費、日用品費之に次ぐが又電車賃に相當費すものもある。貯金をする者は五九九人あり、其の中一箇月五圓以上拾圓以下の者二割八分で第一位五圓以下二割三分餘、拾五圓以上貳拾圓以下一割八分、拾圓以上拾五圓以下一割三分之に次ぎ、六拾圓以上の者は五名ある。郷里(他府縣の意)へ送金する者は四九一人で、其中拾圓以上貳拾圓の者三割七分で多數を占め、次は貳拾圓以上參拾圓二割四分、拾圓以下五圓迄一割八分の順で送金する者の中には家計の爲の送金も相當多數を占めるが、別に記載上明かに家計の爲又は補助として毎月父母又は家庭へ提供するものを調べた結果、其數三九一人で貳拾圓以上參拾圓を提供するもの二割四分六厘、之に次いで參拾圓以上四拾圓の一割四分、拾圓以下の一割三分、四拾圓以上五拾圓以下の一割二分の順である。

次に配偶關係に至ると特別の記入欄を設けなかつたが記載の全般から推算すると約千人中五十七人位は有配偶者と見てよからう。内縁の夫、實質上の夫婦關係の點から見るときは遙かに多數になると

思ふ。女給の感想欄で記入のあるもの二、一三一人の中女給は女の職業として悪いと言ふもの二割八分、良いと言ふもの二割二分、何の考へなしとするもの一割六分、其他良いとも悪いともなく經濟的事情に就て書いたもの、色々の希望を書いたものが約二割五分、別に弊害に就ての記入のあるもの一割五分で弊害中では誘惑が多く又誘惑され易いと言ふものが最も多く三割六分を占める、時間が長くて不規則と言ふもの一割八分次第に心がすれて不良性となるが一割で之に次ぐ、不良の徒には困ると言ふもの二十五人ある。

最後に希望感想欄中、將來に就ての記入のあつた者が二、三三五人で、其中結婚問題に就て書かれたものが多數を占め四割八分餘、一定の方針の定まらぬもの二割九分、自分の將來の職業に就ての希望方針を書いた者が二割ある。結婚問題では未來の夫についての抽象的の考へものが大多數であるが、中には職業を具體的に示したのも相當見受けられた。一定の考へなき者には全くボンヤリと其日其日を過してゐる者と現在の仕事或ひは生計に迄追はれて將來の事に考へを及ぼす餘裕がないといふ者との二種があつて之は殆んど相半ばする。

將來の職業に就ては只漠然と職を移したいといふ者もあるが、多くは希望職業を示してゐる。其中では商賣柄飲食店を開きたいといふ者が最も多い。又何か商賣をやりたいと言ふものも多數ある點から矢張り勤め人としてではなく自分で獨立して營業を営みたい希望者が多い様に見える。其他勤め人

としての種類を判然と掲げてゐるのも見受けられる。

票の記載方法には左程大きな期待はかけてゐなかつたが、比較的よく書かれてあつた。大體から見て支出欄の記載の整つてゐる票は他の記載殊に希望感想欄も中々よく纏つて書かれてゐた。左に比較的纏つて書かれたもの二、三を掲げて置く。(原文のまゝ記す)

(例一) 自家生計補助の爲並びに自分將來の安住を東京に需めたかつたからです。上京後數箇月の餘裕も持たず現在の職業につきました。

収入が一定して居りませんから毎月の過不足も判然と申し上げ兼ねますが冗費は出來得る限り節約して剩餘あらば必ず貯金へと心掛けて居ります。収入の費途に付て申し上げますと實家生計の補助、自己の被服費外用度品費、交際費等ですが狭い範圍の割合に支出は案外御座います。

生活と云ふ大きな刺戟に依つて働いてゐる私達、且つは現在及び將來の善き指導者である現在主人を載く私に何の不平不満がありませんか。毎日愉快にさうして着實に歩みを續けて居ります。近頃稍もすれば私達の職業に對して侮蔑的言辭を弄する人がありますが誠に心外で御座います。斯うした事は其人の無理解にもよりますが現職にあるものが職業婦人としての自尊心に缺けてゐることに起因して居ないとも申されません。此の自尊心を傷けぬ様に私は今後とも眞面目な歩調を辿つて行くことを心に誓つて居ります。如何に破壊的な暴威、暴力でも此の心の前には必ず屈す

ることを信じて居りますから……。

將來は豫測すべからざる事で御座いますが志を抱いて上京した以上碎身、初志貫徹の爲め營々として其日其日を有意義にと勤めて居ります。私の將來の考としては實家生計の確立が第一で御座います。其の安定を見ました上自らを處理致す考で御座います。

自分の行く可き道に付ては何等の理想もありません。眞面目に……正しく生き度いと思ふ許りです。

### (例二) 月收四拾圓の者

初め行儀見習です。夫に嫁したのは大正十一年の春です。

夫に随ひ夫の業を助けました、夫は目下金融業。

夫が震災で打撃をうけたので其の回復發展を速やかならしむる一助にと。

一家族五名です。總計費は毎月百參拾圓位です。私の収入を加へて總收入貳百圓程度です。七拾圓内外の餘裕があります。其れを債券買入の資とするか又は確實なる人に二、三名連帯で夫は貸し付けて居ります。

婦人の道と言ふ方面から論すれば自己の意志強固なれば決して間違ひの起ることなく反對に男子の缺點の甚だ多きを知ります。嚴然たる婦人の職業と解して従事せば収入も相當にあり、數年間

の努力によつて相當必要の蓄財も出來將來世に立つ第一歩の基礎が出來ると考へます。

弊害の方面から見れば汗知らずの貰ひは五錢、參錢の有難味を知らず、朝寝、墮弱、男を誤間化す、甚しきは外泊等又は偽名等。希望としては、各自に戸籍謄本、戸主、親權者の承諾書を所持せしめ巡查をして一週一回調査を勵行せしむれば家出人の搜索に便なり、又右の承諾は戸主、親權者の監督となり女の操行上の禍を減す。其他多々あれども紙面に限れば略します。

家庭圓滿の第一は生活の絶對的安全なり。金拾萬圓にて國庫債券を求むれば月利五百圓を得る。之を目標として努力し目的を達すれば更に第二の目標五拾萬圓に向つて努力す故に安田善次郎氏を崇拜する夫の腦裏に同感にして其實現を私は祈ります。先づ第一に出費の大節約を斷行し収入に協力して蓄財を多からしめなければならぬ。

(例三) 月收百拾圓、家事の手傳ひ

兄が入營の爲小遣を少し許りとりまして後全部家庭に入れて居ります。決して餘裕なんかありません。貰ひは幾らかの差があります。多く貰つたとてそれだけ又要ります。現在では幾らあつても不足勝ちな境遇です。

決して今の職業を良いとは思ひません。それを考へる時は唯女の弱い心は涙より外はありません。ですけれども只今務めておる所は今の組織で非常に嚴格故安心して働いて居ます。どうせカフエ

ーです故に不真面目な青年、不良少年が入込みますので私達弱い女性をして不安な思ひをさせます。之れは私だけではありません。私達のような職業に就くものは皆不安な胸を躍らせて居る事です。私の只今の境遇。それは働くより他に道がありません。病身の父や兄弟の爲に只今の職業は離れたうございますがそれは出来ません。人々に何と言はれても働いて家庭を助けつゝ長閑な春風の來ることを祈つております。私は兩親及び兄弟の爲なれば未來の憧れも犠牲になるを惜みません。現在の父と同居する様になりましたから……。

(例四) 百貳拾圓の月收者、生活上現職についた。食費拾五圓、(定食代)間食代拾貳圓、雜費拾圓(化粧代、足袋、下駄、電車)、着物代に拾圓、現在では略々月六拾圓づゝ要して居ますが私達は固定給ではありませんから定つては居りません。

私等は女ですが何の様な事があつても兩親を見なければならぬものでございますから現在の様な職業になつたことを喜んでおります。悪いと思ふことはともすれば自分の勞力以上の御祝儀を下さる人が良い御客と言ふ様な頭になることが一番悲しいことです。自分は女であると言ふ事を強みとする様な氣分にならない様で居る事に一番現在が苦しみます。

(例五) 家事の手傳ひ

月收參拾圓の者。比較的職務が易いから。毎月貳圓簡易保險に納める。拾五圓位衣裳料。參圓位

化粧費、壹圓五拾錢湯錢、參圓は下駄及び器具破損辨償費其他雜費六圓は規則として店主に渡す。良いと思ふことは比較的他の職業よりも樂な事。來客の殆んど全部が女の貞操を目的とし聴くに堪えざる言語を平氣で食堂に於て放ち私達が貞操の何たるかを解せざる女の如く思ひ眞面目にすれば祝儀等少なく店主の機嫌も悪く自然平氣に客の言に合はずやうになり以つて益々悪化する故に祝儀を全廢し月給制度とするならば幾分か善良になるかと思はれます。其他弊害は不良男子の出入多き事。

初めて此の職業に入りましたが初めての思ひと現在の實地と大變相違しましたので一日も早く廢め様と思ひます。けれど一度こんな所へ入つたのですもの衣裳の五六枚も出來たら國へ歸へり眞面目に家庭の人になりたいと思ひます。

### 第三章 カフェー、バー、レストランの概観

#### カフェーの起源と變遷

始めてカフェーの出來たのは明治四十四年に東京市京橋區銀座通りに東京美術學校出身の洋畫家松山省三氏がプランタンと云ふカフェーを開業したに創まると云ふことである。さうして間もなくパウリスタ、ライオン、ブラジル等のカフェーが開店したのであるが當時の市民の大部分はカフェーの何

たるかを知らなかつたのでプランタンなどでは最初の間は出入の顧客も特定されてゐて洋畫家や著述家、思想家とでも云ふやうな所謂新しい人達の集會所の様なもので、主としてコーヒーを喫し、ウキスキーを呷つて談り合つて居つたものである。丁度農村の青年達の寄合場所である髮床やの役目をつとめてゐたのであつた。

それが此等の人達の繪となり小説となつて漸次一般に紹介され理解を得て、やれウーロン茶の香が何うの、カステーラの感觸が彼うの、五色の酒は何うの、カフェー情調はと非常な勢を以てカフェーの流行となり、其設備等は他の飲食店に迄影響したのであつた、それもこゝ五六年此方のことで關東大震災を以て一新紀元を劃したのである、細長い蔭敷きの腰掛けを据え、桃割れ髪の娘さんが、赤い前掛けで給仕してゐた汁粉屋までが、一躍椅子、テーブルにニッケル製の丸盆と變り、束髪の娘さんが白いエプロン姿で立働く状態となつたことは、行燈がランプとなりガス、電燈と進歩したと變りはない。

#### カフェーの種類

近來は化粧品、藥品、菓子、果物店等の兼業が増えたが、大體に於てカフェー、バー、レストランは地方的、場所的に分類され、東京では山の手、下町、大阪では島の内、福島又は場末のカフェー等と區別され、其施設等の優劣に依つては山手に不似合だとか、銀座向だと云ふ様に品定めされ、更に



其氣分等も加へて概括品評して、一流店とか、二流三流の店と云はれて居り、女給も亦ピアノのある店と大正琴の轉つて居る店によつてカッキリと趣味の異つた者が集まり、カフェーも亦此種別に應じて略然たる區分が見られる、又中には初めての客は一切斷つてゐる様な特殊な店もある。

#### カフェーの名稱

經營者としては位置の選定と其設備に就ては細心の注意と努力を拂ふと同時に其名稱を定めるに當つては想像以上の苦心を重ね、頭を悩ましたのが多い。中には其名稱を懸賞募集して開業廣告を重ね多額の賞金を懸くるものある等其苦心の一斑を覗ふに足る。

名稱の前後にはカフェー、サロン、ベーカーリー、バー、レストラン、喫茶、喫茶店、喫茶部等を呼び良い様に附けてカフェーパリス、ラフターサロン、稻門ベーカーリー、山吹バー、レストラン長堀、喫茶コリス、鶴屋喫茶店、資生堂喫茶部と云ふ様に感じよく呼び名を表はしてゐる。

今東京、大阪兩市に於ける名稱を列べて見ると

天野、佐々木、高柳、神谷、田原屋、小倉屋、阿波屋、大黒屋、鶴屋、菊屋、ちんや、千疋屋、三橋亭、多賀羅亭、江戸川亭、東洋軒、精養軒、紅葉軒、燕樂軒、資生堂、天下堂、五東堂、賛成舎、甘露坊、花月、風月、新杵、聚樂、灘萬、本みやげ、三田、稻門、神田、本郷、灘波、長堀、鴻乃巢、琵琶湖、不二、アルプス、新高、ライン、ロンドン、パリス、ナポリ、ハンブルグ、チリー、

ベニス、マルタ、パウリスタ、ウーロン、ブラジル、大東京、大大阪、メトロポリス、北日本、エスキモー、フランス、ロシア、イタリー、アメリカ、バシフィック、太平洋、オリエンタル、太西洋、エーシア、ユーロップ、五大州、世界、國際、宇宙、ライオン、タイガー、イーグル、雀、紅雀、青い鳥、蛙、黒猫、リリー、ダリヤ、鈴蘭、薊、堇、月桂冠、澤之鶴、ユニオン、エビス、キリン、アサヒ、サツボロ、サクラ、一番館、五番館、十番館、百番館、エーワン、エービーシー、ホーム、朝日、大和、ブレッド、ランチオン、アイオイ、銀ブラ、政治、復興、文化、ヨカロー、スキート、ガストロ、コリス、幾代、八千代、千代田、高千穂、三笠、ワシントン、セントラル、腫、プラス、蕾、リズム、グリル、オリンピックグリル、曙、グリーン、ミドリ、タバーン、ナナ、ガルメン、金の鈴、銀の鈴、スター、銀の星、金の星、銀月、太陽、銀水、桃太郎、キユウピット、赤鬼、青鬼、天狗、ブラザー、シスター、ラフター、パラダイス、グランド、ホワイトパイロット  
即ち簡單なる姓より始まつて屋、亭、軒、堂、館を附した屋號、軍艦名から酒、麥酒の名其儘のものや、地名、人名、山嶽、河海の有名なるものを用ひ、動植物名から小さいところは腫、大きいのは世界、宇宙と云ふ様に凡有る事物を引用してゐる、又泰西名著の中から抜いたもの、お伽話から引き出したものを用ひて發音の感じや此等の名稱を附することに依つて考へらるゝ氣分に相應しい施設を以て顧客の心に迎合してゐる、又最近では多くの店で意匠を凝らして店名入りのマッチを客に配つ

て廣告を兼ねてゐるが、其箱の型と圖案にも亦店の情調に相應しい氣分が表はされてゐる。

#### カフェーの外観

カフェーの外観は一般理髮店のその様に、立看板や店名を讀まないまでも、一見直ちにカフェーであることを直感せしめる。さうして此等の外観は所謂カフェー造りと稱するもので、特殊な形状と強烈な色彩を以て外面全體を調和よく整へ植木を配する等其店獨特の氣分を代表させてゐるのが多い。主として夜間の營業であるから電燈の光を利用することに依つて一層濃厚な特色を表はして、青、緑、紫等色様々の光を投げて道行く人の足を止めさせる。

入口のドアや窓ガラスにも店相應な色と形に變つた所を見せてゐる。

夏なれば白いカーテンと遣り水に涼しさを思はせ、冬なれば赤い電燈に、ロシア更紗の窓飾りを硝子越しに外から見せて如何にも暖かさうな構へに變へる。入口の敷石には縁起の鹽が三かたまり行儀よへ列べられるのが多い。

#### カフェーの内部

カフェーの内部は外観に於けると同様、天井、壁、床に至るまでの形と色合模様等細心の注意を拂ひ、中には軟かい感じを起させる爲めに庭一面に鋸屑を厚く敷き詰めたものもある。

電飾と彩光、椅子とテーブル、花瓶と插花、額と油繪の型と配置には店の氣分に調和をとり、テ

ブルの合間に植木鉢を配して、洋酒棚とカウンター、ビールスタントの配列、さてはラジオ、蓄音機、ピアノ、トリオすつと下つて大正琴の様なものまでも備へ付け店獨特の氣分を醸成するに努め、白いエプロンを着けた女給の歌ふ小唄の寂しいリズムを交へて愈々カフェーの特色を表はしてゐる。

夏は氷柱を据へたり噴水を作つたりして煽風器と相俟つて涼しさうに模様替へをする、冬なればストーブの石炭が赤い焔を動かしてゐる、納涼デー、櫻狩り、紅葉狩り、と店全體の裝飾を變へ、女給に揃ひの衣裳を着せるのもある。又大部分の店ではクリスマスデコレーションは毎年必ず行つてゐる、特殊な店では階上にダンスホールの設備をしてゐるものもあると云ふ。

尙茶碗、皿、ナイフ等の食器類に至るまで徹に入り細に亘つて其店の特長を持たし、新鮮な氣分を表はす様努力されてゐる。

#### 顧客の種類とカフェー情調

カフェーの顧客は大體地方的場所にカッキリ區別づけられるが、又カフェーに入つて來る時間の早い遅いに依つても變つてゐる。さうして凡有階級の人々を網羅してゐるが特殊な婦人を除いては殆んどが男子である、尙此外大體に於てカフェーの種類に應じての女給が雇はれ、女給に依つて客種が變る傾向がある。

こうした顧客の種類を大體學生、勤人、商人の三つに分けると、カフェーも亦之等の三つの何れか

の『向』と云ふ様にも云はれることとなる。今二三の實情を例記してみると

緑に黄や白色光の眩い電燈の下では青年紳士がシャンパンやコクテールの杯を舉げてゐる……中央の蓄音機臺からはフォックスワットのダンシングミュージックが靜かに響き初めた……青い絹の衝立を距て、ウエイトレスとお客が相擁してダンスの姿勢をとつた……。

蔭鬱な青電燈の淡い光りの下ではピロッド服の長髪青年が紅茶々碗の飲み残りを見つめて深い思ひに沈んでゐる……傍には黒塗りのピアノは重苦しい色を照り返へしてゐる……。

ラヂオや蓄音機の騒々しさを外に若い金卸の學生が女給と丸テーブルを圍んで囁いてゐる……傍では女給と烏打帽の學生が「都の西北」を唄つてゐる、其横では赤ら顔の中年男が熱爛をチビリくと女給を相手に管を捲いてゐる……。

と云ふ様に店の空氣が違ひ、此等全部を總括してカフェー情調と云はれてゐて、此等の氣分も夜の九時十時十一時と時の過ぐるに従つて次第に濃厚の度を加へて行くものと云はれてゐる。畫家は繪に、文士は單行本や新聞雑誌と縦横の描寫に各人獨特の妙筆を振つてゐる。尙店に依つては女給全部が一樣にお客が一寸した甘いことを云はふものなら「妾光榮だわ」とか云つた言葉を連發する、之れに反して何と云つても「ハイ」以外の言葉を一切用ひないで唯ニコニーとしてゐるものもある、客用の椅子には一切腰を掛けぬもの、ナフキンを必ず左の腕に掛けてゐるもの等多種多様な言語、動作は女給の服

装と内部の施設と相俟つて其店の中に一つの統一された空氣を漂してゐる。

さうしてそれが又其店の空氣にピッタリと調和されてゐるやうである。

又お客の中に時々蒲田の人気女優が紅茶飲みに来ると云ふやうなことがあると、其の噂が次から次と傳はつて其の女優見たさに押しかける新規の客が雲集する、ために其店の人氣が際立つて引立つと同時に、情調氣分は一夜の中に變つてしまつて、店の氣分と云ふよりも、其お客たる女優を取巻いた情調と云つた方が當つてゐる結果となるのである。

又之れに反して人相の悪い、一見憎惡の感を起させる服装をした不良の徒が、いつも片隅のテーブルを占領して、紅茶一杯で二時間の餘も据り込み、出入の客を一々デロリくと眺めてゐると云つた店は、いつとはなしに感じの悪い陰鬱な店と云ふことになつて次第に客足が遠ざかつて行く。

右の様にカフェー情調はお客の種類に依つて其過半の氣分を左右されると同時に此客種が亦其店の盛衰に至大な原因をなしてゐる。

#### 營業資金と經營方針

此種の營業は景氣不景氣に依つて幾分左右はせられるが、他の營業の様に激しくはなく、最も打撃を受けるのは女給の良否に依るとのことである。客扱ひの上手な、若くて美しい女給が居る間は何と云つても其店の強味である。さうして女給の出入りの烈しい店は、自然お客の顔振れまでが烈しい變

り方をするのが普通である。であるから一般に考へられてゐる経営方針としては、店にはかうした女給の四五人もが常に勤めてゐて呉れて、而も異動が頻繁であれば、店主も常に店が賑ふことであり、大いに歓迎する所であると共に、女給の方でも店が變る度にお客が新しくなるから自然チップが多額に上り、双方の利益とされてゐる。然し實際はさう理想通りに行かないから後任に適當な女給が来るまでは何うしても足止策を講じなければならぬこととなるのである。

萬一にも女給が全部出てしまふものなら何んな賣出しの店でも二三日の中には門前雀羅を張るの狀態となるのが普通である。だから例令定員一杯の外に豫備の一人も雇つてあつても常に女給志望者を物色してゐるものである。

さうして一方出前を澤山取る様附近の需要家の信用を得ることである。

しかし又一般にコックは渡り者が多いから店主の目を掠めて材料を誤魔化したり、徒にするから其方面の監視も一苦勞である。

尙コックは大抵の店では女給の採用にまで立入つて相當店内でも實權を握つてゐるが、此コックの權力を振ふ程度に應じて其店の風紀が亂れてゐるのが通則であるらしい。さうしてかう云ふ店では女給の出入が殊に頻繁である。一方女給から見ても萬一にもコックに憎まれやうものなら、全く以て鷲に啄まれた小雀の様なもので到底其店では立働くことが出来ないこととなるのである。

であるからコックと女給の協調については一般店主の頭痛の種とされてゐる。

小さい店の設備なら貳參千圓もあれば立派な雜作が出来上るし、氣持のよい食器類まで整へられる勿論同業組合があるけれども花柳界のその様に加え金だの株だのと小面倒なものでなく極簡單に開業が出来るのである。

だから開店後の見込が確實でないとしても、やつてみよう位の考へで開業する者が雨後の筍の様に出出して、今は丁度其の絶頂にあるやうである。

#### 店則と女給の責任

店則とでも云ふべき其店の規定は嚴重に勵行されてゐて、背く者は即座に退店を命ぜられてゐる様である。

今實地調査に於て聞き得たる事項と調査に表はれたものを列記すると

- 一、ナイフ、ホークの磨きと客室等の掃除は一般に女給の仕事とされてゐる。
- 一、顧客の受持を決めるのは大部分は一組の客毎に(一人でも幾人でも關はない)店へ入つて來た順序に従つて女給が順次受持つて行き同じ一組の客でも多人數になると女給の數を適宜増すのであるが、中にはチャンとテーブルを決めて今日は何のテーブルは誰れの受持、明日は又別のテーブルへと毎日テーブルを變へて受持を決め其テーブルの上には「絲」とか「春」とか「何番給仕」とか受